



学校だより



昇陽 Sho-yo

校訓「昇る陽の如く」

第6号
発行日
令和4年
8月30日

学校教育目標 学が喜びを知る生徒 誠実な生き方ができる生徒 たくまい気力・体力を身に付けた生徒

第2学期を迎えて

校長 寺井 進一郎

39日間の夏季休業日が終了し、第2学期がスタートしました。昨年同様、第1学期の終業式間際の急な「新型コロナウイルス感染症」の拡大は、オミクロン変異株 BA.5 の登場もあって、7月下旬～8月に一気に進行し、またしても、第1学期を終了し、夏季休業日で生徒の皆さんを家庭にお返しした途端に全国的な流行に見舞われました。但し、昨夏は「まん延防止等重点措置」や「緊急事態宣言」が発令されましたが、今夏は国や自治体を挙げての行動制限は全く無く、人々は自由に往来できる状況でしたので、昨年以上に家庭・地域での感染拡大を心配しておりました。

8月29日の始業式は大事を取って放送によるものとなりましたが、生徒の皆さんに再会できたこと、ホッと安堵しております。まだまだ感染拡大が心配される場所ですが、生徒・教職員一丸となり、これまで同様「コロナ禍」に立ち向かって創意工夫により平常の教育活動を取り戻して参る所存であります。保護者・地域の皆様、どうか第2学期もよろしくお願い申し上げます。

一夏を過ごす中で感じたこと

毎年のことですが、公立中学校の教職員としての一夏は、夏季休業日が始まる7月下旬から部活動に明け暮れ、県や市の教育委員会や研究団体主催の研修に参加しながら、生活上の話題として8月の全国高校野球甲子園大会や広島・長崎の原爆の日、終戦の日などを気にしながら、お盆を迎え、授業の準備をして第2学期の始業式に至る、といった感じだと思います（50代後半の私はそんな感じです）。この8月、テレビのニュースを視聴していたところ「8月6日、9日、15日が何の日か知らない若者が増えている」との報道がありました。実際、10～20代の人々のインタビューを交え、意識調査等のデータを示して報じていましたが、教員としての責任を痛感した出来事でした。「私は、30年もの間、教師として次世代を担う子供達と一緒にいながら、一体、何を伝えてきたのだろうか？」そう自らに問いかけずにはいられませんでした。私達教員には、平和を求める国民を育成するという大きな責任がある筈です。日本国民にとって、個々の考え方は様々ですが、最低限、8月初旬から中旬にかけてのこれらの日が持つ意味を理解することは大切なことだと考えます。この時期を迎えると私の頭の中に一つの歌が流れます。寺島尚彦作詞作曲「さとうきび畑」。今年は沖縄の本土復帰から50周年を迎えており、朝の連ドラ始め沖縄の本土復帰や太平洋戦争末期の沖縄戦が話題となっていますが、この歌は、何か、日本が、日本人が、決して忘れてはいけないものが込められているような気がします。歌の主人公は一人の少女。沖縄で戦死した父の顔を知りません。やがて大きくなると、一人、父親を探しにさとうきび畑に行き、父は、なぜ戦い、なぜ亡くなったのか、通り抜ける風の音を聞きながら静かに悲しみを訴えます。

この夏、感じたことに触れさせていただきました。

さとうきび畑

作詞・作曲 寺島尚彦

ざわわ ざわわ ざわわ 広いさとうきび畑は
ざわわ ざわわ ざわわ 風が通りぬけるだけ
今日も見渡すかざりに 緑の波がうねる
夏の陽ざしの中で

—以下、繰り返し部分を省略—

むかし海の向こうから いくさがやってきた
あの日鉄の雨に打たれ 父は死んでいった
そして私の生まれた日に いくさの終わりがきた
風の音にとぎれて消える 母の子守の唄
知らないはずの父の手に だかれた夢を見た
父の声をさがしながら たどる畑の道
お父さんて呼んでみたい お父さんどこにいるの
このまま緑の波に おぼれてしまいそう
ざわわ ざわわ ざわわ けれどさとうきび畑は
ざわわ ざわわ ざわわ 風が通りぬけるだけ
今日もみわたすかざりに 緑の波がうねる
夏の陽ざしの中で
ざわわ ざわわ ざわわ 忘れられない悲しみが
ざわわ ざわわ ざわわ 波のように押しよせる
風よ悲しみの歌を 海に返してほしい
夏の陽ざしの中で
ざわわ ざわわ ざわわ 風に涙はかわいても
ざわわ ざわわ ざわわ この悲しみは消えない



校内研修 ー長期休業中の講義・演習・作業ー

授業のない長期休業中は、教員にとっての研修期間となります。学校を離れて研修機関に向く他、校内でも全教員で研修を進めています。今夏の校内研修は委嘱研究(特別活動)の講義・演習や新学期に生徒の皆さんを迎えるための環境整備などを行いました。



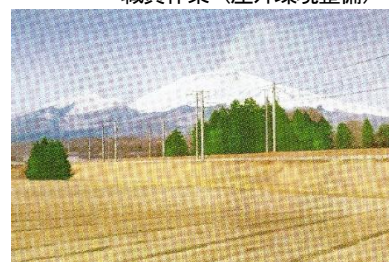
特別活動の演習(模擬学級会)



職員作業(屋外環境整備)

絵画の寄贈作品を校内展示

夏季休業日中に校舎(A棟西階段2~3F踊場壁面)に絵画2点を展示しました。作家は羽生市在住であった故・寺井力三郎(1930-2021)現校長の実父です。寺井は東京都出身の洋画家(油彩が主)で、東京藝術大学を卒業後、県立不動岡高等学校講師、高崎芸術短期大学教授など教壇に立ったほか、画壇での会派「一水会」に所属、委員を務め、昨年他界しました。今回、展示した作品は、生前、長男である校長が作品の寄贈を願い出たところ、当人が承知して実現したものです。作品は浅間山を一望する「信越本線」、村君のスカイスポーツ公園上空を行く飛行機「フライト」の2点です。



信越本線 1995 (150F)



フライト 2004 (80F)

各大会等での生徒の活躍

夏季総合体育大会

陸上競技部、野球部、ソフトテニス部(男子)、剣道部、卓球部(女子)、柔道(個人)、体操(個人)、バドミントン(個人) 県大会出場(7月、県内各会場) 主な成績…野球:ベスト16 剣道:女子団体ベスト16

埼玉県吹奏楽コンクール東部地区大会

吹奏楽部 7月29日(金)羽生市産業文化ホール 中学校D部門 銅賞

9月の行事予定

日	曜	予定	日	曜	予定
1	木	給食開始 避難訓練	16	金	臨時歯科検診 2-3, 4, 1-1 公立高校説明会(3年)
2	金	第2回東部地区学力検査(3年)	17	土	
3	土		18	日	
4	日		19	月	敬老の日
5	月	清掃カット	20	火	部活動壮行会 全校除草 新人体育大会(陸上)
6	火	全校朝会 臨時歯科検診 3-1, 2, 3	21	水	臨時歯科検診 1-2, 3, 4
7	水	生徒会専門委員会 ノーメディアデー	22	木	教育支援・学力向上推進担当学校訪問(研究・公開授業) 特別日課
8	木		23	金	秋分の日
9	金		24	土	
10	土		25	日	
11	日	テスト前部活動停止	26	月	
12	月	家庭学習充実・ふれあいデー	27	火	北埼玉地区新人陸上競技大会(1日目)
13	火	交通安全指導 臨時歯科検診 3-4, 2-1, 2	28	水	北埼玉地区新人陸上競技大会(2日目)
14	水	第2回定期テスト(テスト日課)	29	木	北埼玉地区新人陸上競技大会(3日目)
15	木		30	金	

※新型コロナウイルス感染症の状況によっては、変更する場合がございます